

# お手入れのしおり

## [ 植物 編 ]

適切な管理をしながら

日々の変化を楽しみましょう

※商品の仕様変更によりお手入れの方法が変わる場合がございます。  
あらかじめご了承ください。

お引渡し後のご連絡は下記までお願いいたします

お問合せはコチラ  045-782-1327  
 iroha@green-farm.co.jp

営業日の9時30分～18時（年末年始・店舗休業日を除く）

彩庭 HP



ガーデン・エクステリア

彩 iroha 庭

株式会社 グリーンファーム

〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東 4-49-7

●植栽した後の管理

# アフター メンテナンス



グリーンファームでは植栽後もお客様のライフスタイルや植物の生長に合わせたアフターフォローを行っております。ご自分で管理が難しい場合はぜひプロにご相談ください。

ご相談・お問い合わせ

tel. 045-782-1327



## 花壇年間メンテナンス

ガーデナーがお客様のお庭に合わせて必要な作業を年間で管理いたします。

常にお庭を綺麗な状態に保ちたい方にお勧めです。

1年間 **35,000**円/m<sup>2</sup>~ (税込) (植え替え植物代別途)

## お手入れレッスン

今後ご自分でお手入れをしていきたい方のためにガーデナーによるお手入れレッスンもご用意しております。お庭の植物に合わせたお手入れ方法をお教えいたします。

3時間 **17,000**円~ (税込)

## 剪定(せんてい)作業

木1本からの剪定も承っております。お客様からのご要望と木の性質に合わせた剪定を行います。

半日 **23,000**円~ (税込) (各ゴミ代別途)

## バラメンテナンス

バラの剪定や誘引、施肥など必要に応じたお手入れを行います。

1日 **46,000**円~ (税込) (作業員1人)

## 消毒作業

木の種類や症状に合わせた消毒作業を行います。

**12,000**円~ (税込)

## 草刈、除草作業

スペースや状態に応じて草刈りや除草を行います。

半日 **23,000**円~ (税込) (刈払機又は人力、ゴミ代別途)

## 花壇の植え替え、手入れ作業

季節ごとの花壇の植え替えや、下草類のお手入れを行います。

1日 **46,000**円~ (税込) (ゴミ・植物代別途)

## 支柱作業

木の種類や場所に合わせた支柱を行います。

八つ掛け支柱・1本 **13,000**円~ (税込)

## 芝生メンテナンス

芝刈りやエアレーション、除草など必要に応じたお手入れを行います。

半日 **23,000**円~ (税込)

## 自動灌水

ご自分でのお水やりが大変な場合は自動灌水のお取り付けも行っております。

※金額についてはご相談ください。

● 樹木・草花のお手入れ

# 草花のお手入れ

成長サイクルが短い草花は種類に応じたお手入れで丈夫に育てる



樹木に比べて、成長のサイクルが短い草花。その分、手入れには手間も多くかかります。一年草、宿根草などの種類によって手入れの方法もずいぶん異なります。

特に活動の盛んな時期は毎日気を使って、庭に活力と彩りを与えてくれる草花の世話をしたいものです。

## 花がらを摘んで花が弱まるのを防ぐ

花が咲き終わると、草花に取り込まれた養分は種をつくるのに使われるようになります。養分を消費して次に花が咲かなくなるのを防ぐには、種をつけさせないように花がらを摘みます。咲き終わった花弁には害虫やカビが付きやすくなるので、それらを予防するのも役立ちます。

## 草花の種類に合わせた手入れを

一年草と宿根草とでは、肥料の与え方など管理のポイントが異なるので、注意が必要です。

成長が早い一年草は、初めのうちからしっかりと肥料を与えます。花期が長い草花は肥料が不足しがちなので特に気をつけましょう。鉢植えの場合は、1~2週に1回の割合で液肥を与えるようにします。花壇には、1~2か月に1回程度、化成肥料を与えます。

宿根草には成長期と休眠期があるので、時期によって肥料の与え方を変えます。枯れて根だけになったり、茎と葉を残すものの成長を止める休眠期は、株を傷めるので肥料は与えないようにします。ただし、水やりは行います。土が乾いて2~3日して水を与え、乾燥気味にするのがコツです。

## 形よく育てるために新芽を摘み取る

アサガオやミニトマトなどの草花は、成長が盛んな時期に、新芽を摘み取ると全体の形を整えられます。茎数が増えて花の数が増える効果も。芽

の下の葉を2~3枚一緒に摘み取ります。伸びすぎた茎を除いて新芽に養分を送る「切り戻し」も効果的です。



## 花を長く咲かせるために大切な追肥

花数が減り、葉の色も悪くなってきたら、追肥を与えましょう。追肥には即効性のある化成肥料がおすすめです。液肥の場合、葉にかからないようにジョウロなどで株の周囲にムラなく適量与えるとよいでしょう。※液肥は株の周囲にムラなくかける。固形肥料は土の表面に置く。

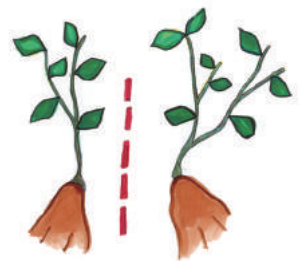


### おすすめ商品



## お気に入りの花は株分けで増やす

宿根草や一部の樹木は、成長した株を手やナイフで切って株分けし、増やすことができます。株分けすることで、新芽が十分に成長する効果も得られます。一般的に、落葉性の種類は休眠期に、常緑のものは春や秋に行います。ほかにも挿し木、分球など、さまざまな増やし方があります。



グリーンファームでは、草花の植え替えやお手入れも承っております。ご自分でお手入れしたい方のために、ガーデナーによるお手入れレッスンもご用意しております。(TEL 045-782-1327)

● 樹木・草花のお手入れ

# 施肥

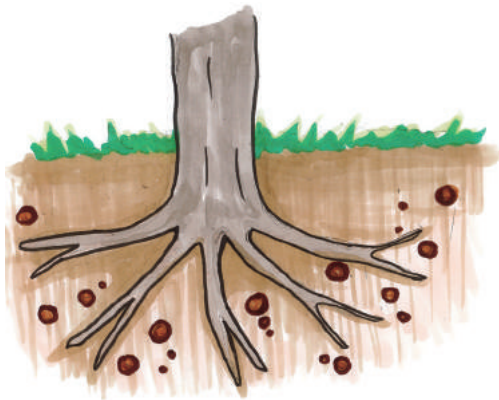
植物に養分を与えた土を  
再び元気にするためには欠かせない



## 樹木の栄養は目的に合わせて

肥料を与えないからといって、樹木が枯れてしまうことはありませんが、樹木を元気よく育てるのに欠かせないのが施肥です。樹木をどれくらい大きさに育てるのか、または、花を楽しむのか、実を楽しむのか、といった目的に合わせて行います。

### 堆肥や腐葉土で日ごろから土づくり



やせた土を再び元気にするために行うのが土壌改良です。植物を育てるには、通気性、保水性、水はけに優れたよい土を作ることが肝心です。

そのために、堆肥や腐葉土をこまめに与え、日ごろから土づくりに励みましょう。

### 花や実の後にはお礼代わりの肥料を

花を觀賞する樹木には、翌年もよい花を咲かせるように花後に肥料を与えます。これはお礼肥といいます。実の場合も同様で、実をつけた後にお礼肥を与えます。ただし、お礼肥を与えても、天候などの影響で必ずしも花や実が毎年よくつくとは限りません。

### 年に1~2回に分けてが施肥の基本

施肥は樹木の休眠期にあたる12月~2月と花後の2回に分けて行うのが一般的です。活動期である夏場の施肥は、肥料やけを起こすので控えます。

肥料は樹幹の下あたりに与えましょう。一度に与えすぎると病気の原因にもなります。また、根を張る前に肥料を与えると根が傷んで弱ってしまうことなので注意しましょう。



醗酵油かす



バイオゴールド

### 与えすぎ、育ちすぎに要注意

樹木がある程度の大きさに育ったら、庭の広さに応じて、大きさを維持していくことも必要です。あまり大きく育ててほしくない場合は、肥料を与えすぎないようにしましょう。施肥によって勢いよく育ってしまうと、自然な樹形を損なう場合もあります。

グリーンファームでは、樹木の種類や時期に合わせた施肥作業も行っております。(TEL 045-782-1327)

● 樹木・草花のお手入れ

# 芝生のお手入れ

芝刈りを定期的にする事で  
きれいな芝生を保つ



## 芝刈り回数とお手入れの目安

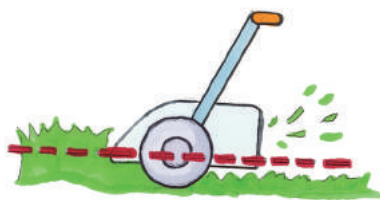
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
芝刈り	月1～2回			月2～4回			月1～3回					
施肥	速効性肥料				緩効性肥料		速効性肥料					
目土	目土							目土				目土
除草	芝生用除草剤散布			芝生用除草剤散布			芝生用除草剤散布			冬草の除草		
害虫			発生状況により殺虫剤散布			1～3回						
その他	殺菌剤						殺菌剤					

### 水やり

芝が根付くまで、こまめに水やりしてください。できるだけ細かい霧状で均等に散水しましょう。根付いてからは、日射の強い夏場や雨の少ない時期に行います。暑い時間帯を避け、早朝か夕方に長時間かけてまいてください。

### 芝刈り

この作業が芝生管理の最も基本的で重要な管理作業です。芝刈りを定期的にする事できれいな芝生を保ちついでに雑草も刈れます。刈り高は3cmを目処に5cmを超えないように刈ります。もし芝刈りが遅れ、葉が伸びすぎてしまった場合には、一気に元の高さまで刈らずに1～2cmぐらいずつ葉が残るよう徐々に刈り高を下げていきます。軸刈りになってしまうと緑がなくなり元に戻すのにとっても苦勞します。最悪の場合には芝生の張替えをしなければならぬこともあります。特に梅雨明けから急激に成長するので芝生の伸び具合を見ながら、早めの芝刈りを行うように心がけてください。



芝刈り後には、刈った葉（サッチ）を熊手などで取って掃除しておきます。注意点として雨の後など水分を含んだ状態で芝刈りをしてしまうと、刈った芝生が芝刈り機の刃にまとわりつき刈りにくいので、十分に乾いてから刈るようにしましょう。

### 除草

芝生の面積がそれほどなければ、定期的な芝刈りとたまに手作業で雑草を根から抜くことで、ほぼ雑草は目立ちません。このように除草剤を使



わず管理するのが理想ですが、面積が大きくなると手除草だけだとかなりの重労働になります。手除草が少なくて済むように除草剤をうまく使えば楽に管理ができます。基本は土壌処理剤を春・初夏・秋に散布し、雑草の発芽率を抑えます。何も散布しない場合と比較し、8～9割ぐらいの雑草の発芽が抑えられると思います。あわせて必要に応じ茎葉処理剤を使用すれば、ほぼ手作業で雑草を抜くことなく管理できます。ただし、夏場で30℃前後の日が続くとき、通常の倍率で除草剤を使用すると薬害が出やすくなるので気を付けましょう。



土壌処理剤



茎葉処理剤

## 施肥

肥料は基本的に春から秋にかけての成長期に施します。土壌や芝生の状況によりますが、上記の管理歴を一応目安として年3回程度、施してください。肥料も化成肥料や液肥など様々な種類がありますが、肥料の3要素のチッソ(N)・リンサン(P)・カリ(K)が8-8-8がおすすめです。施肥管理の注意点としては肥料が少ないと全体的に緑が薄く黄色くなり、濃すぎると肥料やけを起こします。また、均一に施肥をしないと肥料ムラがでやすいため注意してください。



## 目土

砂質土を1㎡当たり約50～100g、春・秋にまき、ホウキで芝目にすり込みます。

## 穴あけ (エアレーション)

芝生を張って数年経ち、下地が踏圧などで堅くなり生育が悪くなってきたときには、エアレーションという作業をします。だいたい深さ10cm、直径1～2cmぐらいの穴を15～20cm間隔に開け、目土を埋めます。そうすることで芝生の生育を促し、新しい根を伸ばす環境を用意することになります。

## 害虫

初夏から秋にかけて芝生の葉や根を食べてしまう害虫が発生します。気候の急激な変化(特に梅雨明けから一転



し、急に夏の暑さと乾燥が続くとき)などのきっかけで害虫が増え、放置しておくとう芝生の緑が失われ全体的に白っぽくなり、茎ばかりになってしまいます。

主な害虫の種類としてはヨトウムシ・シバツトガ・コガネムシの幼虫などです。対策としては、殺虫剤で数少ないうちに対応します。害虫発生が比較的少ない場合なら年間1、2回の殺虫剤散布でほぼ影響のないレベルになるでしょう。しかし害虫が多く発生した場合、同じ殺虫剤を何回も使い続けると害虫に耐性が出来始め、殺虫剤の効きが悪くなる可能性があります。そういった場合には、殺虫剤の種類はたくさんありますので、できれば2、3種類の薬を変えながら使用するといいでしょう。また、使用の際は効果・使用法をよく読み、環境に配慮してお使いください。

グリーンファームでは、芝刈りや除草、エアレーションなど、必要に応じたお手入れを承っております。ご自分での作業が難しい方は、ご相談ください。(TEL 045-782-1327)

● 樹木・草花のお手入れ

# 病害虫対策

日ごろから庭をよく観察し  
樹木のSOSにいち早く気づくことが大事



## 変化を見逃さず素早く対応する

ときには庭木が枯れてしまうほど、害虫や病気の被害は深刻です。ですから、剪定（せんてい）や施肥などに比べて、処置は素早く行う必要があります。日ごろから庭をよく観察することによって、樹木のSOSにいち早く気づくことが何よりも重要です。人間同様、季節の変わり目には特に注意しましょう。

### 環境づくりと薬剤で害虫予防

病害虫を防ぐには、剪定と雑草駆除で風通しと日当たりをよくして、庭の環境を整えます。

春秋は月1回、粒剤のオルトランを根元に散布すると、ある程度の害虫予防になります。また、冬場に殺虫・殺菌効果のある石灰硫黄合剤をまくのも効果的です。



### 葉の裏や根元、幹をチェック

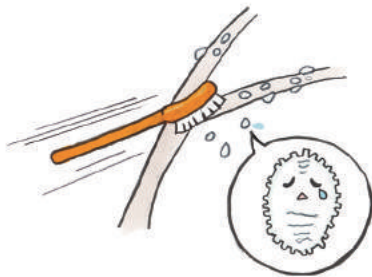
地面に虫のフンがあればケムシやミノムシが、葉の裏に黒い点々があったらハダニやゲンバウムシがいる可能性があります。

根元に切りくずがあれば幹の中を食害されていることも。ヨトウムシなどの夜行性の虫もいるので、夜に懐中電灯で照らして見てみましょう。



### 退治法は相手に合わせて

カイガラムシは歯ブラシでこすり落とせます。アオムシやケムシなどは割ばしで取り除くとよいでしょう。葉や幹についているアブラムシやハダニを見つけたら、殺虫剤をまきます。冬の間に卵やさなぎを見つけた場合も、すぐに取り除いておくことが肝心です。



### 毎日の観察で早めに発見を

害虫の被害を少なくするには、害虫が成長する前のさなぎや卵の段階で取り除くか、見つけた時点ですぐに駆除するしかありません。害虫の発生は5～6月と9～10月がピーク。病気の発生時期も同様です。特にこの時期はまめに庭に出て樹木の様子を観察しましょう。

### わからないときはプロに相談する

樹木の病気は早期発見が難しく、目で見て症状がわかるようになったときにはかなり進行していることもあります。病気の部分はすぐに取り除いて焼却し、薬剤を散布します。本などで調べても判断がつかない症状は、その部分を持っていき、プロに相談しましょう。

グリーンファームでは、樹木の種類や症状に合わせた消毒作業も承っております。  
ご自分での消毒作業が難しい場合は、ご相談ください。  
(TEL 045-782-1327)

● 樹木・草花のお手入れ

# 水やり

日ごろから樹木を観察し、  
各々の木の個性を考えながら行う



## 一本一本の種類や性質を考えながら

樹木には、カツラなどの水を好むものやオリーブなどの乾燥を好むものがあります。種類によって性質が異なり、さらには各々の樹木の個性もあります。水やりは、日当たり、風通し、水はけといった土地条件を考えただけで、樹木を観察しながら行うのが大事です。

### 植え付け直後は水量を増やして

植え付け直後の1年間は、たっぷり水を与えます。樹木がまだ根付いていないため、摂取できる水の量が少ないからです。

1年を過ぎたら、樹木の様子を見ながら水量を減らしていきます。



### 地面が乾いたらたっぷりが基本

樹木の乾き具合がわかるように、地面や葉の状態をよく観察しておきます。根元の地面をさわって確かめ、地面が乾いていたら、水をやります。一度にたっぷりと与えるのがコツです。樹木の下に草花を植えている場合は、その分多めに与えます。  
(根元の地面に指先を入れて、乾き具合をチェック。)



### 葉や幹にも水分を与える

水分は根からだけでなく葉や幹からも吸収されます。湿り気を与える程度でよいので、葉や幹にも水をかけるようにしましょう。

ただし、夏場の日中は直射日光が強いため、葉に水をかけるのは禁物です。水滴がレンズの役割をして、葉が焼けてしまいます。



### 季節によって回数と時間を調節

夏は樹木の活動期なので、基本的に毎日水やりをします。日中は避け、朝8時前までと夕方5時以降の2回行うとよいでしょう。冬は晴天が続いて地面が乾燥したら、午前10時から午後2時までの暖かい時間帯に水やりをします。1週間に1~2回が目安です。お水やりが大変な方は自動灌水装置のお取り付けがおすすめです。

### 水やりチェックポイント

- ◎水切れ……一番外側にある葉や頂上部分の葉先から枯れてきます。水をたっぷり与えましょう。
- ◎水の与えすぎ…下の方の葉から枯れてきます。地面が乾いてからお水を与えるようにしましょう。

### 庭の隅や軒下にも行き届くように

水が土の表面だけを流れて、根の先まで届いていないと、庭木が枯れる原因になります。庭の隅や軒下などに植えられた樹木にも一本一本、目を配ることが大切です。水がしっかり樹木に届いているか、量は十分に足りているかを特に注意しながら水やりを行きましょう。



● 樹木・草花のお手入れ

せん てい  
剪定

樹木本来の美しさを維持し、  
健やかな成長を促す



樹木の美しさと健康を保つために

剪定によって不要な枝を取り除くことにはふたつの目的があります。ひとつは、樹木本来の美しさの維持。もうひとつは、日当たりや風通しをよくして、健やかな成長を促すことです。それだけに、剪定には樹木への思いやりと美的センスが必要です。

落葉樹は枝振りの美しさをポイントに

細い枝をこまめに切つて、繊細な美しさを維持するのが、落葉樹の剪定のポイントです。大きくなったからといって太い枝を切ると、反動で力強い枝が出てきてしまいます。新緑が出そろって葉が固まった7～8月ごろと、落葉後の11～3月ごろが剪定の目安です。※株立ちは中心に向かって、交差した枝を切るとすっきり見えます。



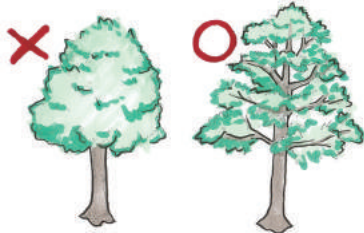
コニファーの枝は新芽のうちに刈り込む

コニファーの場合、やわらかい新芽のうちに刈り込んであげましょう。時期は春先が適しています。先端が枝分かれたものは中心の主枝以外を剪定します。一度枝を切ってしまうと、そこからは新しい枝が生えてこないのです。気をつけて行いましょう。



常緑樹は風通しと日当たりを考えて

込み入った枝に葉が密に茂ってしまうと、病害虫が発生しやすくなります。中心部まで風が通り、日差しが入るように剪定します。新芽が伸びる5～7月と、成長が休止する9～10月に行うのが理想的です。年に1回だけなら、10月が適期といえます。



サツキやツツジは花が終わった後に

サツキやツツジなどの花を楽しむ低木は、花芽を切らないように、花後1ヵ月の間で剪定するとよいです。花芽がついてからの剪定では、翌年の花付きが悪くなります。花の終わった直後なら、深く刈り込んでもまた伸びてくるので、伸びた枝を切って大きさを維持できます。



- 照明器具付近に枝葉が近づくと器具や樹木を傷める可能性があります。こまめに剪定を行うと良いでしょう。

剪定時期は高木の成長が目安

茂った高木がつくる日陰は、下に植えてある植物に影響を与えます。庭全体のことを考えて、高木の成長に合わせて剪定を行うと良いでしょう。登ると危ない高い木は、プロに頼むほうが安心です。

グリーンファームでは、樹木一本からの剪定も承っております。ご自分での剪定が難しい場合は、ご相談ください。(TEL 045-782-1327)